

緩和ケア病棟

さとわ

No.16

さとわ

緩和ケア病棟「郷和」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

コロナ禍の緩和ケア病棟「郷和」

施設長 篠川 主



日本国内では2020年1月14日中国の武漢から帰国した30代男性が、国内初の新型コロナ（COVID-19）と診断され、現在まで第1波、第2波感染拡大が出現しております。この正体が把握しきれず、対応が定まらない感染症に政府、地方自治体、医療機関、国民の皆様は大変な影響を被っておられると思います。

100年前のスペイン風邪（1918パンデミック）では日本でも約39万人が死亡されたと言われております。第一次世界大戦の中、情報は共有されることなく、世界で何が起きているか把握できない中で多くの方が犠牲になったと考えられます。病状を悪化させる大きな要因は、当時も今もサイトカインストームという、炎症に伴って起こる生体内の過剰反応と考えられています。

100年前に比べ現在何が進歩しているのでしょうか？。現在は膨大な情報があり、研究論文が公表され、コロナウイルスの遺伝子情報、変異、治療法、重症化し易い人の特徴、感染経路、感染者数の予測、受け入れ可能な病床数、ワクチン開発など多岐に渡ります。一方社会生活が制限され、経済的に困窮を余儀なくされている方も多い状況です。万民が納得できる有効な対策を示すのが困難な状況下で、怒りの矛先がウイルスではなく政治家に向かい、感染者や医療従事者への差別感情まで生れています。一方、不幸にしてウイルス感染で亡くなった時に、家族との対面は遺骨になってからという残酷な場面も報道されました。また病院では感染対策に神経質になっていても、院内感染を防

ぎきれていないのが実状です。

完全な感染防止策が無い状況で、免疫の弱まった患者様が多い緩和ケア病棟では、苦渋の対策の一つとして面会制限を行ってまいりました。5月に行われた日本緩和医療学会のアンケート調査によると、20%近い緩和ケア病棟で面会禁止措置がとられ、多くの病棟で何らかの面会の制限が行われておりました。郷和は独立型の病棟であることもあり、南部郷厚生病院の他の病棟より面会制限は緩やかに設定してまいりました。しかしご家族にとっては十分と言えるものではなく、不満を訴える方も、黙って協力して頂いたご家族もいらっしゃいました。患者様だけでなく、ご家族も含めケアしていくというのが、緩和ケアの原則です。私達のできる接触、飛沫感染のリスクを減らし新型コロナ感染から入院患者様を守るといことと、ご家族のケアとの板挟みで病棟スタッフもこれまで苦悩してまいりました。制限された入院生活の中で患者様のQOLを病棟スタッフのみで改善する方法も色々試みてまいりました。

いまだに新型コロナ感染は終息の目途が立っておりません。私達緩和ケア病棟のスタッフは、色々な情報を見聞き、努力を怠らず工夫を重ねていくことを心掛けております。皆様と共にコロナ禍の時代を歩んでまいります。

看護師としてのこれからの抱負

南部郷厚生病院 緩和ケア病棟看護師
田辺 真理

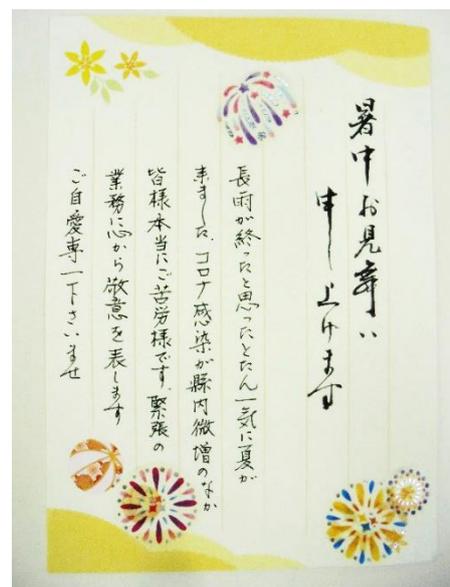
4月から郷和に異動となり、早いもので4か月が経とうとしています。私が看護師を目指した理由を振り返りながら今後の抱負を考えていきたいと思えます。

私が看護師となった理由、緩和ケアにたずさわらせていただきたいと思うようになった理由は父との経験からです。父は私が小学校6年生の時に亡くなりました。小学生のころのことであり、あまり病状を把握出来てはいなかったのですが、胆管癌が見つかった時には手術適応もない状態だったと聞いております。小学生の私は、父の病気のことについて最期の時まで知らされることはありませんでした。自宅療養を行っていた父ですが、ついに自力で動けなくなり入院となりました。私達家族は父を含めて3人、毎日のように父の病室で付き添い、寝泊まりする日々。最期の日、私はいつものように病室から小学校へ登校する朝でした。ひとりの看護師さんから「今日も学校へ行くの？」と声をかけられました。私はその一言では何のことだかさっぱりわからず、いつものように声をかけてくれただけだと思

「行ってきます」と答え、登校しました。今考えてみるとその時看護師さんは、父の状態が悪く、引き留めてくれたのだと思います。昼休み、放送が鳴り職員室へ呼び出されました。その時、ようやく事の重大さに気づくことが出来ました。担任の先生から迎えに来てもらい泣きながら下校、急いで病院の階段をのぼって父の病室にむかったことを覚えております。最期の時には間に合わず、親戚一同が見守る中、すでに息をひきとっていました。一番最後に着いた私を待ち、医師は死亡確認をしてくださりました。小・中・高校では、“なんであの時学校へ行ってしまったのだろう”と最期に間に合わなかったことを引きずり、ふと思い出せば心の中で自責の念でいっぱいになることがありました。そんななか「お年寄

りが好き」、そんな理由で看護師を目指し、大学に入学した私ですが、「緩和ケア」の講義を選択し、そこでの学びから自身の経験についてもとらえ方が変わりました。今までは“最期の時に間に合わなかった”と考えてしまうことばかりでしたが、緩和ケアを学ぶにつれて、最期の時も、「呼吸・心臓が止まった瞬間ではなく、ご家族が納得された時を死亡時刻とさせてもらうこと」そのことを学び、私の中でモヤモヤしていた気持ちが少し晴れ、救われたように感じました。また、緩和ケアは最期の瞬間だけでなく、最期の時までの過程が最期の時に患者・家族には大きく影響するのだと学びました。大学の講義から緩和ケア病棟「郷和」について知り、その時からそこで看護にたずさわってみたいと目標が出来ました。

念願の郷和へ異動となり、まだまだ症状のアセスメントの視点や症状コントロール方法など、日々勉強させていただくことばかりです。なかなかコミュニケーションが得意ではない私ではありますが、患者様・ご家族様の希望を引き出し、その人らしい最期の時間を過ごせるお手伝いをさせていただけたらと思っております。私のように残された家族の方にも、郷和にきて良かったと思っただけのような看護を提供できるように頑張っていきたいです。



ボランティアの皆様より

緩和ケア病棟行事係として

南部郷厚生病院 緩和ケア認定看護師
今井 希子

新型コロナウイルスのため、これまでボランティアの皆さんと共に行ってきた行事ができなくなりました。長く活動がお休みになってしまうと、再開しても来てくださらないのでは・・・と不安に思っていました。しかし、「郷和でのボランティア活動を心待ちにしています」「体調を整え、またお会いできる日に備えております」との温かいお手紙をいただきました。また時々「必要だと思って」と不要になった布を切って届けてくださる方もおられます。大変な中であっても、こうして郷和のことを考えていただけること、本当に感謝しております。

現在郷和では、工夫しながら患者様に楽しんでもらえるよう、スタッフで協力しあいながら行事を行っています。先日は患者様と一緒に笹団子作りを行いました。

早期のコロナ収束を願いながら、患者様、またご家族のために今できることをスタッフ全員で頑張っています！

緩和ケア病棟遺族会係として

南部郷厚生病院 緩和ケア病棟看護師
高岡 嘉衛

郷和では患者様とご家族のケアを行っています。入院時からそれぞれの思いを受け止めながら、残された大切な時間を後悔のないよう過ごして頂きたく、ケアを提供しています。

住み慣れた家に帰りたい、ご家族に会いたいと言われる患者様は多く、ご家族もできることなら家で介護をしたい、せめて外泊させて家族みんなで過ごしたいと思っておられます。しかし、現在は新型コロナウイルスの流行により、付き添いや面会に厳しい制限があり、寂しい思いをしている患者様やご家族が多いと感じます。入院中の患者様のご様子を

できるだけ詳しくお伝えしたり、行事やお茶の時間での患者様の笑顔を写真や動画でご家族にプレゼントして、思い出にして頂けるようにしています。また、患者様が郷和で安心して過ごせることがご家族のケアにつながると考え、優しく丁寧なケアを心がけています。

残念ながら遺族会の開催が中止となりました。これに代わり自分たちにできることがないか今後も模索していきます。

郷和の風景



2019年度 実施行事

4月	お花見コースター作り お花見	10月	押し花コースター作り
5月	ふれあいほっとコンサート (新潟県文化振興財団) マジックショー	11月	蕎麦打ち
6月	ゴスペルコンサート	12月	クリスマス会(ハンドベル)
7月	ライアーコンサート	1月	鏡開き・玉飾り・初釜
8月	夏祭り	2月	節分 豆まき 紙芝居
9月	長月コンサート	3月	ひな祭り オカリナコンサート

「郷和」利用状況

(2019年4月~2020年3月)

入院患者数	94人
-------	-----

退院患者数	98人
(死亡退院)	95人
(自宅退院)	2人
(施設)	1人

一日平均入院利用者数	14.0人
------------	-------

平均病床利用率	69.8%
---------	-------

平均在院日数	53.2日
--------	-------

発行年月日 2020年8月14日

編集・発行 南部郷厚生病院

緩和ケア病棟「郷和」

〒959-1765 新潟県五泉市愛宕甲2925-2

TEL(0250)58-6111(代) FAX(0250)58-7300

ホームページ <http://www.sinjinkai.or.jp/kanwa/>

メールアドレス kosei@sinjinkai.or.jp

